

データサイエンティストを育てる「統計検定」の5年間

総合情報学部 社会情報学科 森 裕一

Keywords: 統計学, データ分析, データサイエンティスト, 資格試験

1. ビジネスを支えるデータサイエンス

データサイエンスとは、統計学や情報処理などの情報技術を駆使し、企業がもつ膨大なデータを処理し、データから価値を創出し、ビジネスの課題に対する解決策を示すことである。あらゆることがデータから導かれる時代、ビッグデータ処理、ICTの発展を背景に、21世紀を支える最新科学がデータサイエンスといえる。

そのデータサイエンスを実践できる人材がデータサイエンティストで、「最もセクシーな職業」と称されるほど魅力があり、いま最も必要とされている職種である。日本では、その人材は不足しており、一般社団法人データサイエンティスト協会 (www.datascientist.or.jp/)なども設立され、より積極的な人材育成が望まれている。

2. 統計検定の5年間

そのデータサイエンティスト育成に貢献すべく日本統計学会が公認する統計の知識や活用力に関する資格が「統計検定」である(表1)。

2011年11月20日の第1回実施から5年が経ち、今年の11月試験(通算9回目)で6年目に入る。受験者数は年々増え、年間受験者数も1万人を超えようとしている(図1)。総受験者数は26,736人で、その年齢分布をみると、大学生が最も多いが、23歳未満が37%、24歳以上が63%と、社会人の受験が当初から半数を超えている(図2)。全受験者

表1 統計検定の内容

種類	内容
1 級	実社会の様々な分野でのデータ解析を遂行する統計専門力
準1 級	統計学の活用力 — データサイエンスの基礎
2 級	大学基礎統計学の知識と問題解決力
3 級	データの分析において重要な概念を身に付け、身近な問題に活かす力
4 級	データや表・グラフ、確率に関する基本的な知識と具体的な文脈の中での活用力
統計調査士	統計に関する基本的知識と利活用
専門統計調査士	調査全般に関わる高度な専門的知識と利活用

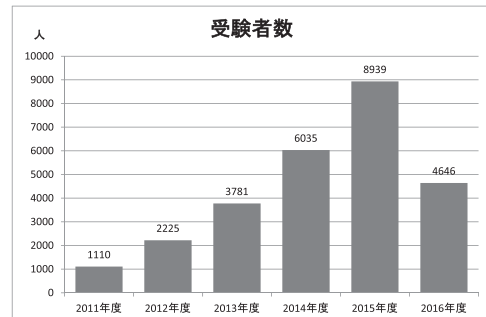


図1 受験者数の推移 (2016年度は6月試験まで)

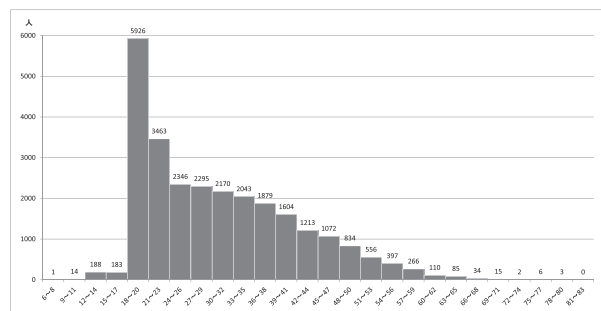


図2 全受験者の年齢分布 (3歳刻み)

実際の職場でデータ分析を行っており、社会人に必要な資格として統計検定が認知・活用されていることがわかる。

3. 統計検定の受験方法

統計検定は、毎年6月と11月に行われる。6月は、準1, 2, 3, 4級を全国6会場、11月は、1, 2, 3, 4級、統計調査士、専門統計調査士を全国8会場で受験できる。また、団体特設会場を一般の受験者にも開放しており(次回11月試験で5会場)、本学もその1つである。さらに、2級, 3級においては、全国約180か所の会場で、会場が指定する日時であればいつでもコンピュータ上で受験できるCBT方式による試験も提供されており、受験機会も格段に増えた。

データサイエンティスト必須の資格として、「統計検定」を検討されたい。

参考文献・URL

- 森 裕一 (2016). 統計検定受験者の分析. エストレラ, 2-7, (公財)統計情報研究開発センター.
- 一般財団法人統計質保証推進協会 (2016.10.3). 統計検定. <http://www.toukei-kentei.jp/>

連絡先 TEL & FAX: 086-256-9652, E-mail: mori@soci.ous.ac.jp